

メディアコンバージェンスに向かう 映像ビジネス最新動向

隅倉 正隆 ● IT放送技術ジャーナリスト

光の普及で加速するIPTV、集客力のある映像ポータル 視聴形態の多様化にネット事業者と放送局が挑む

デジタル技術と通信技術の発展により、新聞、テレビ放送、インターネットなど異なるメディアが1つに融合する「メディアコンバージェンス」時代に突入しようとしている。ブロードバンドを中心として、各メディアを有機的に結びつけることで、メディアの価値を高めていくことが映像ビジネス成功の鍵になる。本稿では、現在進行しているサービスの現状を整理するとともに、今後の可能性を解説する。

■ リビングで視聴するIPTVサービス

通信事業者のトリプルプレイ戦略としても注目を集めるIPマルチキャスト方式を利用した多チャンネル放送サービス「IPTV」。2006年5月現在、IPマルチキャストへの地上デジタル放送の再送信は認められていない。そこで通信事業者は、CS放送（通信衛星放送）やCATVで放送している番組をIPマルチキャストを利用して配信している。

また、IPユニキャスト方式を利用したVOD（ビデオオンデマンド）サービスは、通信事業者やCATV事業者が「好きなときに好きな番組を見ることができるサービス」として積極的に提供し始めている。IPTVサービスを展開しているソフトバンクBB（BBTV）やNTTグループのぷららネットワークス（4th MEDIA）、KDDIグループのDION（光プラスTV）など、テレビ局や映画会社などから映像コンテンツを仕入れ、自社の光ネットワークを利用してIP伝送によるコンテンツ配信サービス（IPTVとVOD）を提供している（資料5-2-1）。

これらのサービスを利用するためには、各通信事業者が提供している光サービスに加入する必要がある。現行のテレビ放送と同様、家庭の居間に置かれたテレビで視聴するスタイルであり、地上波テレビ放送と同じシチュエーションで、パソコンのように身構えることなく多チャンネル放送やVODコンテンツを手軽に視聴できるメリットがある。つまり、視聴者は電波で放送される映像と通信回線で伝送される映像の違いを意識せずにテレビ受像機で視聴することができる。さらにVODサービスでは、レンタルビデオ店で人気ビデオが貸し出し中のときや、冬場外出頻度が減る北海道や東北地方、さらにレンタル店が遠い地域などでは利便性が高い。

■ 居間以外の場所で視聴する映像ストリーミング

一方、契約しているブロードバンド回線の種類に依存せず、自由に利用できる映像ストリーミングサービスは、Windows Media Playerなどの再生ソフトを使い、パソコンで視聴するスタイルである。

パソコン向け映像ストリーミングサービスは、Yahoo! JAPAN（Yahoo!動画）やUSEN（GyaO）などのポータル事業者が、アニメや映画、ドラマなどの映像番組をVODサービスとして展開している。これらはポータルサイトとしての強みを生かし、利用者を急速に増やしている（資料5-2-2）。

このパソコン向け映像ストリーミングサービスの視聴層はM1・F1と言われる20代から30代の男女が中心であり、学校や職場の昼休み時間や、深夜、雨の日の休日、昼間などに多く利用されているようである。また、パソコン向けより若年層が多い携帯電話向けにもサービスを展開している。

■ テレビ局が展開する放送コンテンツのネット配信

2004年7月から、NHKがIPTV事業者へ過去に放送したもののうち権利許諾が得られた番組約200本を提供し始め、2005年からはフジテレビ（フジテレビOn Demand）やTBS（TBS BooBo BOX）が放送番組の提供を開始した。そして2005年10月には、日本テレビが「第2日本テレビ」を発表し、パソコンや携帯電話向けに放送番組の有料配信サービスを開始した（資料5-2-3）。

一部のテレビ局などでは、映画制作と同じ「制作委員会」方式を採用し、多ウィンドウ展開を考えた番組制作を始めているが、もともとテレビ番組はインターネット配信を考慮していない番組がほとんどであるため、ネット配信することは難しい。そこで、権利者団体などでは、放送コンテンツの「蔵出し映像」をネット配信するための権利処理方法の検討を進めている。さらに、今後新たに制作されるテレビ番組がテレビ放送、映画放映、DVD販売、DVDレンタル、インターネット配信などの多メディア展開を前提に、映画制作と同様の制作委員会方式によるコンテンツ制作を積極的に行うになれば、地上波で放送されている番組をIPTVサービスとして多く配信できる状況になる。

また、ネット企業が“映像のポータル”を目指し、動画

資料5-2-1 IPTVサービス比較

サービス名	4th MEDIA	BBTV	光プラスTV
提供会社	ぶらネットワークス	BBケーブル	DION
開始日	2004年7月	2004年6月	2003年12月
対象機器	STB/TV	STB/TV	STB/TV
対応ISP	ぶらら、BIGLOBE @nifty、hi-ho So-net	Yahoo/BB	DION
配信帯域	6Mbps	2Mbps	4Mbps
VOD	○	○	○
多チャンネル放送	○	○	○
料金	初期費用：5,229円 月額：2,835円 STB費：24,150円（買取）	初期費用：10,290円 月額：2,100円 STB費：525円/月	初期費用：3,150円 月額：2,520円（買取）
VODコンテンツ	6,000本	5,200本	3,500本
多チャンネル放送	59チャンネル	26チャンネル	30チャンネル
備考	月額料金は、レギュラープランほかにPPV（ペーパービュー）あり	月額料金は、ベーシックプランほかにPPV（ペーパービュー）あり	ほかにPPV（ペーパービュー）あり

出所 筆者作成

検索を強化しているが、テレビ局はそもそも魅力的な映像コンテンツと検索に有効なメタデータも保持していることから、テレビ・パソコン・携帯電話などの多プラットフォーム向けにメタデータを有効活用した新しいサービスも可能な立場にある。

■ HD対応、伝送方式や権利保護機能の標準化が課題

技術面の課題としては、パソコン向けに提供している映像ストリーミングサービスとSTB（セットトップボックス）向けに提供しているIPTVサービスでは、映像圧縮方式や伝送方式、さらに権利保護機能が異なるため、提供するコンテンツが共通化できていないことである。さらに、デジタル放送の開始と薄型テレビのフルHD（High Definition、高精細）対応により、利用者が画質を気に始めていることもあり、早期のHD映像配信の検討が必要になってきた。

そんななか、地上デジタル放送での難視聴都市部のビルの谷間や山間部などの難視聴エリア 対策として、NTTなどの光ネットワークを利用した地上デジタル放送（HDTV放送）のIP再送信の実証実験が始まっている。権利保護方式（DRM）や伝送方式、ホームネットワーク利用などの方式が業界として標準化されれば、ブロードバンド対応STBも家電として浸透していくと考えられる。

■ 多様化する視聴形態にマッチしたサービスに期待

今後はユビキタス社会の発展と生活スタイルの変化に伴い、視聴形態の多様化が進む。「ブロードバンド家電」や「ホームサーバー」が商品化され、2006年4月に開始した「ワンセグ放送」、次世代のデジタル放送サービスとして検討

資料5-2-2 映像ストリーミングサービス比較

サービス名	Yahoo!動画	GyaO
提供会社	Yahoo!JAPAN	USEN
開始日	2003年12月	2005年4月
対象機器	PC (Windows Media Player)	PC (Windows Media Player) 携帯電話
対応ISP	ISPフリー	ISPフリー
配信帯域	300kbps～1,500kbps、1Mbps	384kbps、768kbps
VOD	○	○
多チャンネル放送	-	-
料金	無料（広告モデル） 会員：月額294円（税込） 有料コンテンツ有り	無料（広告モデル）
コンテンツ	無料16,000、有料15,000	常時1,500番組
多チャンネル放送	-	-
備考	「VOD」「チャンネル型動画配信」「動画投稿」「動画検索」を展開	PC向けGyaOと携帯電話向けモバイルGyaOを展開。 有料配信は、ShowTimeにて提供

出所 筆者作成

資料5-2-3 テレビ局のコンテンツ配信サービス比較

サービス名	フジテレビOn Demand	第2日本テレビ	TBS BooBo BOX
提供会社	フジテレビ	日本テレビ	TBS(東京放送)
開始日	2005年7月	2005年10月	2005年11月
対象機器	PC (Windows Media Player) STB/TV	PC (Windows Media Player) 携帯電話	PC (Windows Media Player) STB/TV
提供ISP	PC向け： So-net、Biglobe、All、ShowTime、OCN STB向け： OCN Theater、オンデマンドTV、NextensiveVOD、BBTV、4th MEDIA	ISPフリー	PC向け： スカパー！BB、BB.excite Yahoo! BB、クラブビット・アリーナ、BIGLOBE、OCN、So-net、ScreenPlus、ShowTime、gooBBit-Japan、eonetシアター PC STB向け： J:COM オンデマンド、Nextensive VOD、オンデマンドTV、4th Media、BBTV、KDDI 光プラスTV
配信帯域	PC向け：500kbps、1.5Mbps STB向け：3～6Mbps	500kbps、1Mbps	500kbps、1Mbps
料金	コンテンツ単位に月額（525円～） 期間課金（210円～）	PC向け：無料・有料・ポイント 携帯電話：月額157円（税込）	1作品ごと、52.5円～420円程度
備考	CS放送番組を中心に配信	入会時に1000ポイント提供	

出所 筆者作成

されている「サーバー型放送」など、利用者が好きな番組を好きな場所で視聴するスタイルが定着し、利用回線や編成（番組時間）を意識しないシームレスなユビキタス視聴形態が加速するだろう。

放送と通信インフラ、コンテンツのメディアコンバージョンによって、視聴者の利便性を向上させる、新しい時代の放送、コンテンツ配信サービスが提供されることを期待したい。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp